

サーボプレスで業務提携 生産の棲み分け図る アイダが中大型 アマダが小型

アイダエンジニアリング株式会社
株式会社 アマダ

アイダエンジニアリング(以下アイダ 社長 会田仁一)とアマダ(社長 上田信之)は、次世代機として注目を集めているサーボモータとクランク機構によるサーボプレスで、技術供与を含めた生産・販売で業務提携することで合意した。

加圧能力 800 k N 以上の中大型機をアイダが、800 k N から 250 k N までの小型をアマダがそれぞれ生産・販売するとともに、両社が生産するサーボプレスを必要に応じ相互間で OEM(相手先ブランド)供給するとともにアマダの小型サーボプレス開発にアイダが技術供与するというのが提携の骨子。

中大型を得意とするアイダと中小型に強いアマダが双方の利点を活かして生産の棲み分けを行い、二重投資を防ぎ、経営の効率化を図るのが目的。併せて、躍進著しい台湾・中国・東南アジア各国に対し技術的な格差をつけ、将来にわたってわが国のプレス分野での優位性を維持する狙いも持たせている。

サーボプレスは、騒音の低減など環境改善、成形に最適なスライドモーションによる高付加価値加工、ロボットとのドッキングによる生産性の向上を図ることのできる新技術として注目を集めており、アイダはプレス用、アマダは板金機械用として技術を確立、共に製品の拡大化を図っている。

サーボプレスでは、すでにアイダが 800 k N 以上を商品化、製品のラインアップを済ませている。

一方、アマダはプレス用として今後 250 k N, 450 k N, 600 k N, 800 k N のサーボプレスを商品化していく計画。これに対して開発を先行していたアイダがプレス用サーボモータを含めたノウハウを提供する。当面は 800 k N 機を商品化、これを契機にサーボプレス分野に本格進出する。

アイダはプレスの専門メーカー。小型プレスで実績を持つアマダとの提携によって中大型機の開発、生産、販売に専念でき、事業拡大に大きな力を得ることになる。

これに対しアマダは売上高に占めるプレス比率は10%に満たないが、サーボという新しい技術に基づく製品が加わるによりプレス事業の拡大という効果が期待できる。

とくに両社は生産の棲み分けを行う一方、それぞれの要求に基づき相手方の生産する製品を自社ブランドで供給を受けることができる契約となっており、両社とも250kNの小型機から2000kNの中型機までを自動的にラインアップすることができることになる。

アマダはこの提携に基づくサーボプレスの生産、販売、サービスの実務をアマダグループ100%出資の子会社、(株)アマダプレステック(社長 河内 章)で行う。昭和51年12月、プレス労働の安全作業を推進する為、動力プレス機械器具の特定自主検査ならびにその指導・教育をする会社としてアマダから分離独立して発足した企業。

現在はアマダプレス商品の生産から販売、サービス、までも手がけるプレス専門メーカー。従業員は240人で、年商約80億円。

本件に関するお問い合わせ先

アイダエンジニアリング(株)

担当：開発本部 菅沼, 営業本部 瀬戸

電話：042-772-5231

(株) ア マ ダ

担当：広報室 木村 菊間

電話：0463-96-3105